

第4回 AMR ワンヘルス東京会議（オンライン開催）

成果文書（サマリー） （仮訳）

2022年2月17日

2022年2月17日、日本国厚生労働省は、世界保健機関西太平洋事務所（WPRO）の協力のもと、AMR ワンヘルス東京会議を開催した。会議には、アジア太平洋地域の保健または農業を所管する専門家、省庁及び関連協力機関が参加した。

本会議は、2016年4月に開催され、「AMRに関するアジア太平洋ワンヘルス・イニシアチブ(ASPIRE)」(※)の創設を宣言した、アジア AMR 東京閣僚会議を引き継ぐものである。

(※) 4つの優先課題（「サーベイランス システム と 検査機関ネットワーク」、「医療マネジメント」、「抗微生物剤のアクセスと規制」、「研究開発」）について、地域の AMR 対策枠組みを実現化するためのロードマップを描くことを通じて、アジア太平洋地域において AMR によってもたらされる課題について、共同で同定し、取り組むことを目的とする。

開催目的

1. ワーキンググループの分野での国を超えた協力関係の進捗、およびワーキンググループ内で ASPIRE の目的をどのように進めたか、取り組みを進める上で克服すべき課題を発表する。

WG1：サーベイランスシステムと検査機関ネットワーク

WG2：医療マネジメント

WG3：抗微生物剤のアクセスと規制

WG4：研究開発

2. ASPIRE の取り組みが、WHO のアジェンダと各国におけるワンヘルス・アプローチをどのように支援できるかを、各国と協議する。

参加者

-WHO 西太平洋地域（WPRO）及び WHO 東南アジア地域（SEARO）の各国保健省
及び農水省 AMR 担当者（課長級）

-WPRO 及び SEARO の AMR 担当者、OIE 及び FAO の AMR 担当者

-国際機関の AMR 担当者（米 CDC 等）、国立研究所の AMR 研究担当者

議事次第

- 開会の辞：日本（厚労省、農水省）、WHO（WPRO）、FAO、OIE、
CDC、NIID
- セッション 1：世界とアジア太平洋地域の AMR への取り組みの概要
- セッション 2：ワンヘルス・アプローチに基づく各国の AMR アクシ
ョンプランの取組（オーストラリア、ブルネイ、ニュージーランド、タ
イ）
- セッション 3：ワーキンググループの進捗報告
- セッション 4：各ワーキンググループでのグループディスカッション
 - (1) ワーキンググループ（①～④）毎に分かれて議論
 - ①サーベイランスシステムと検査機関ネットワーク（議長国：日本）
 - ②医療マネジメント（議長国：日本）
 - ③抗微生物剤のアクセスと規制（議長国：WPRO）
 - ④研究開発（議長国：タイ・シンガポール）
 - (2) 各ワーキンググループからの議論内容の紹介

成果（確認事項）

- ASPIRE の 4 項目を推進することの重要性を鑑みて、日本政府は来年度も引き続き ASPIRE の活動への支援を行う
- 各 ASPIRE のワーキング毎の今年度の活動を共有

WG 1 : ASPIRE グループ全体でのホームページ作成

WG 2 : 参加国の薬剤耐性菌によるアウトブレイクの件数を共有

WG 3 : ヒト及び動物の抗菌薬使用モニターに関する地域の活動の共有

WG 4 : 薬剤耐性における分子や疫学調査を WG1 と進めていく方針を確認

今後の方針

WG 1 : アジアでの耐性菌サーベイランス（ASIARS-Net）の構築と三輪車サーベイランス試行の呼びかけ

WG 2 : 薬剤耐性医療関連感染事例のリスク評価のガイダンスの横展開医療従事者や公衆衛生担当者へのオンラインでの研修

WG 3 : 抗微生物薬適正使用の手引きのガイダンスの多言語化。病院向けの抗菌薬適正プログラムの提供

WG4 : アジア各国でのゲノムサーベイランスの実施